

令和6年度 いのちの授業 事例集（小学校）【朝会】

	地区	学年	教科等	テーマ	内 容	参考事項（講師・教材等）
1	県央	小複合	朝会	人権週間	「人権」とは、命が守られること、社会のルールの中で明るく豊かな生活をする事、幸せに暮らすことであると児童に伝えた。そして人権自己診断と題して、生活場面である友達とのやりとりを事例に、自分ならどうするかを考えさせた。自分と相手は違う人間であり、人によって受け取り方が違うことを示し、人権を大切にする行動について振り返った。「言われてうれしい言葉」カードを記入して掲示することで、全学年で優しい言葉を共有できてよかった、という意見があった。自分や相手を大切にする事の大切さを考えた。	
2	県央	小複合	朝会	人権	人権を啓発するためのパワーポイントを作成し、朝会で啓発をした。現在の綾北小学校の課題を踏まえ、講話を行った。この朝会を通して人権について全学年の児童が考えられた。これまでの自分たちの言動を振り返り、考え学んだことを3学期に実践することとした。	人権担当教員
3	県央	小複合	朝会	いじめ0 宣言	学校長が「わたしのいもうと」の絵本の読み聞かせ後、各クラスでいじめについて考えさせる時間を取った。いじめを根絶するため、そして一人ひとりが安心して過ごせる学校を目指すために、自分たちにできることは何かを「～しない」という否定型ではなく、「～する」や「～ができる」といった肯定型で考えさせた。自分事として考えることができるよう、一人ひとりが考えたものを紙に書いて廊下に掲示をしている。	(使用教材) 「わたしのいもうと」 絵本
4	県央	小複合	朝会	いじめ防止 「しあわせのバケツをいっぱいにしよう」	朝会で校長より「しあわせのバケツ」という話の紹介があった。いじめ防止の取り組みは、「相手を傷つけることを言わない」など、行動や言動を制限、禁止する内容になりがちである。児童が前向きな気持ちでいじめ防止につながる活動に取り組むことができるよう、学校全体で「本校のしあわせのバケツをいっぱいにしよう」という取り組みを行った。 職員室前の掲示板に大きなバケツの絵を用意し、自分が言われて嬉しかった言葉を紙に書いてバケツに貼っていった。書かれている言葉を見るために足を止める児童も多く、自分の言葉遣いをふり返るよい機会となった。	T0ボックス 「しあわせのバケツ 英語でもよめる」 キャロル・マックラウド著

5	県西	小複合	朝会	生命の尊さ	「命を大切にする集会」を開いた。自宅で赤ちゃんを育てている育休中の教員と孫のいる教員、赤ちゃんをゲストティーチャーに迎え、胎児がお腹にいるときの気持ちや生まれた時の気持ち、育てていて大変なことなどをインタビューした。自分たちが小さかった頃も同じで、みんな大切にされてきた命であることを知らせ、自分の命も相手の命も大切にしていこうと呼びかけた。実際に赤ちゃんとお母さん、おじいちゃんが登場して話すことで、子どもたちの心に響く体験となった。	ゲストティーチャー 育休中の教員と赤ちゃん4名ずつ
6	県西	小複合	朝会	子どもの権利について（人権朝会）	人権週間の際に、全校児童を対象に朝会を開いた。「自分の体、心は自分の大切なものである」ことを伝え、自分や相手の気持ちを尊重すること、プライベートゾーンのことなどを、スライドを用いて全校に分かりやすく伝えた。そして、感じ方は人によって違うから、相手の話を聞き、自分の気持ちを伝えることが大切であることを話した。児童からは「イヤって言う勇気がなかったけど、言っていんだって安心した。」「自分で決めていることがわかった。」など、安心感をもったり、自分や相手のことを大切にしようという心情をもったりする様子が見られた。全校を対象に行ったことで、意識の共有を図ることができ、各学年に応じた具体の指導につなげることができた。	対象：全校児童 参考資料 ・「からだのきもち境界・同意・尊重ってなに？」ジェイニー・サンダース ・「ようこそ こどものけんりのほん」えがしら みちこ ・「うみとりくのからだのはなし」遠見 才希子 ・「10歳までに知っておきたい子どもを一生守る『からだ・こころ・権利』の話」やまがた てるえ
7	県西	小5	朝会	ひまわりプロジェクト～ウクライナの復興と平和を願って～	サッカー団体からの依頼で、ウクライナの平和を願い、ウクライナの国花であるひまわりを植えるプロジェクトを立ち上げた。活動として、ひまわりを植えるだけではなく、ウクライナの現状について調べ、実行委員を中心にスライドにまとめた。また、ウクライナの平和を願ったポスターを作成し、全クラスに配付した。朝会にて全校児童にスライドの発表とポスターに込めた願いや思いを呼びかけ、争いのない平和な世の中になることを願う気持ちを高めることにつながった。	
8	県西	小複合	朝会	「小学校で発見されたカメさん」	校庭の側溝から大きなアカミミガメが発見された。 1週間ほど触れ合った後、臨時朝会を開き、アカミミガメが「特定外来生物」に指定され、飼えない時は殺さなければならなくなったことについて話題にし、外来種問題、生き物のいのちを大切にすること、ペットを飼うときの心得などについて考えさせた。 最終的に里親が見つかり、子どもたちからは、「カメを殺さずに済んでよかった」、「ペットは最後まで責任をもって飼わなければいけない」等の感想が寄せられた。	講師（校長） 複合学年（1～6年）
9	県西	小複合	朝会	「故郷の町長崎の話」	講師の故郷の長崎で79年前に落とされた原子爆弾の講話を行った。内容は原子爆弾の威力、長崎市の被害状況、講師の祖母の体験談、子どもの被爆者の体験談、ノーベル平和賞を受賞した被団協の話など。 核兵器の悲劇を二度と繰り返さないため、命がかけがえのないものであること、歴史をしっかりと知ること、被爆者の話を語り継ぐことの大切さについて考えさせた。	講師（教諭） 複合学年（1～6年）